



# 研究題目 地域の日本語に関する研究

[キーワード: 地域言語論, 方言国語史, 日本語支援]

教授 村上敬一

## <研究の概要>

- 若年層から高年層まで、日々改新を続ける地域方言と、就労を目的とした外国人が、地域で生活するための日本語教育を「地域の日本語」として包括し、研究テーマとしています。
- 地域方言については、徳島県内をはじめ、四国、九州の高校、自治体などと連携して、地域の言語変容と、そこに生活する個人の言語変化、第一言語(方言)習得の様相を明らかにすべく研究しています。成果の一部は、徳島新聞社ホームページの「阿波弁今昔」にて公開しています。
- 先の東日本大震災、熊本地震の教訓をふまえ、有事の際、医療・ボランティア活動などで被災地を訪れる人々と、地域住民とのコミュニケーションに支障がないように、支援者向け方言パンフレット(下図)を作成するなど、応用日本語学の観点からも研究を進めています。
- 日本語教育については、第二言語習得の観点から、外国人が地域に暮らすために必要な地域方言の様相を明らかにし、その普及のための実践活動を進めています。

(県西部 ver.)

### 支援者のための 知っておきたい阿波弁

1. 聞き取りにくい発音

- 「せ」「ぜ」が「ジェ」「ジエ/デエ」という発音になる  
(例) 病院のシェンシエーに言われたわ。  
(病院の先生に言われた。)
- 「言った」→「ゆうた(音)」、「洗った」→「あろおた(洗)」になる  
(例) 明日、雨降るってゆうたでえ。  
(明日、雨が降るって言ったじゃないか。)  
このお皿もうあろうたけん。  
(このお皿もう洗ったよ。)
- 進行形が「～よる」に変化する  
(例) 雨がふんりよる。 …現在進行形  
(雨が降っている。)  
今、友達とあそんびよる。 …現在進行形  
(今、友達と遊んでいる。)  
昨日、テレビを見ていた。 …過去進行形  
(昨日、テレビを見ていた。)
- 終助詞に「え」や「で(でか)」を用いる

## <主要研究業績>

- 村上敬一(2016)『新日本言語地図』朝倉書店 ※共著
- 村上敬一(2016)『初めて学ぶ方言学』ミネルヴァ書房 ※共著
- 村上敬一(2020)「支援者向け方言パンフレットの作成」小林隆(編)『実践方言学講座3 人間を支える方言』くろしお出版, 137-156

## <地域(行政)、NPOや企業との連携・共同研究実績>

村上敬一ほか2名(2017)「地域方言を題材とした高大連携による教育活動の実践」『日本方言研究会第104回研究発表会研究発表会』

県立脇町高等学校SSH事業ファシリテーター(2017年～)

## <地域(行政)、NPOや企業と連携・共同研究可能なテーマ>

地域社会における方言の活用に関する研究

地域在住の外国人に対する日本語支援に関する研究

専門分野: 応用日本語学, 地域言語論

E-mail: murakami.kei@tokushima-u.ac.jp

Tel: 088-656-7117

Fax: 088-656-7117

詳細情報: <http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/261428/profile-ja.html>

